

会社情報・株主メモ (2022年3月31日現在)

会社の概況

商号 株式会社ミマキエンジニアリング
 設立 1975年8月
 資本金 43億5,746万円
 事業内容 コンピュータ周辺機器及び
 ソフトウェアの開発・製造・販売
 従業員 連結1,983名/単体784名

役員一覧 (2022年6月24日現在)

代表取締役社長 池田 和明
 専務取締役 竹内 和行
 取締役 羽場 康博
 取締役 清水 浩司
 取締役 牧野 成昭
 取締役 古平 武史
 取締役 森澤 修二郎
 社外取締役(常勤監査等委員) 善野 洋
 取締役(監査等委員) 田中 規幸
 社外取締役(監査等委員) 田中 誠
 社外取締役(監査等委員) 荒井 寿光
 社外取締役(監査等委員) 蓑毛 誠子
 社外取締役 沼田 俊介

会計監査人

有限責任監査法人トーマツ

株主メモ

事業年度 4月1日から3月31日まで
 定時株主総会 毎事業年度終了後3ヶ月以内
 基準日 定時株主総会 3月31日
 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日
 その他必要があるときは、あらかじめ
 公告して定めた日
 単元株式数 100株
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 TEL 0120-232-711 (通話料無料)

郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 公告方法 当社ホームページ(<https://ir.mimaki.com/>)に掲載いたします。ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
 上場金融商品取引所 東京証券取引所市場第一部
 証券コード 6638

(ご注意)

- 株主様の住所変更その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

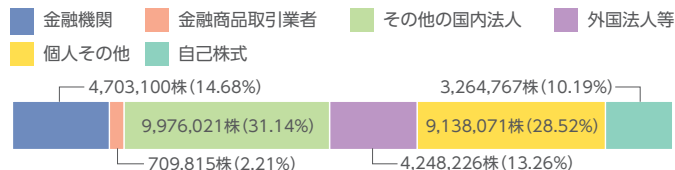
株式の状況

発行可能株式総数 128,160,000株
 発行済株式の総数 32,040,000株
 株主数 3,931名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
株式会社池田ホールディングス	4,859,300	16.89
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,867,800	9.97
有限会社田中企画	2,230,000	7.75
田中 規幸	2,033,100	7.06
東京中小企業投資育成株式会社	1,529,000	5.31
ミマキエンジニアリング従業員持株会	1,139,800	3.96
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	1,091,400	3.79
株式会社八十二銀行	840,000	2.92
アデキパートナーズ株式会社	833,200	2.90
株式会社日本カストディ銀行	626,300	2.18

所有者別状況



ホームページのご案内

当社のホームページでは、IR情報やプレスリリースなどの最新の情報に加え、当社の事業概要、製品、サービスをより深くご理解いただくためのコンテンツをご覧いただけます。ぜひアクセスしてください。



携帯電話やスマートフォンをお使いの方は右のQRコードからもアクセスできます。

アクセスはこちら
<https://ir.mimaki.com/>

公式SNSはこちら

Facebook <https://www.facebook.com/mimakiengineering/>
 YouTube <https://www.youtube.com/user/MimakiPR/videos>
 Instagram https://www.instagram.com/mimaki_japan/

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

BUSINESS REPORT 2022.3

2022年3月期 第47期報告書
 2021.4.1-2022.3.31



証券コード
6638

フラグシップ機に相応しい画質と生産性



330 Series
 JV330-160/130
 CJV330-160/130

詳細はP9-10をご覧ください。

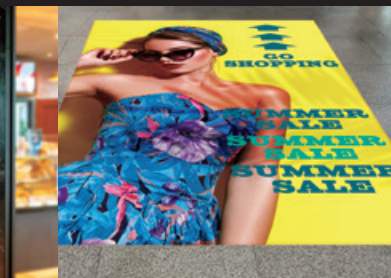
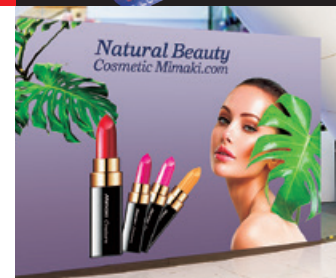
V10
Mimaki
 株式会社 ミマキエンジニアリング



XYスリッター
 搭載により
 省作業・省人化を
 サポート



メディアチェンジャー
 搭載により
 省スペース・
 省作業化



私たちは、独自のラスタ技術^(インクジェット等)とベクター技術^(カッティング等)を柱とした市場志向の製品開発により、デジタル・オンデマンド生産のマーケットリーダーを目指しています

経営ビジョン

- 1 独自技術を保有し、自社ブランド製品を世界に供給する「開発型企業」を目指します。
- 2 顧客に満足いただける製品を素早く提供する小回りの利いた会社を目指します。
- 3 市場に常に「新しさと違い」を提供するイノベーターを目指します。
- 4 各人が持っている個性・能力を一杯発揮できる企業風土を目指します。

ミマキが目指す組織と企業像

イノベーターの集団であり続けるために、そして各人が持っている個性、能力を一杯発揮し、マーケットの潜在ニーズを素早く捉え解決するために、当社では技術・営業・生産・管理・経営企画の5本部体制のもと、小集団によるグループ別独立採算制を追求するGIPS経営を行っています。

GIPS (Group Independent Profitability management System) では、各グループが明確な役割と責任を持ち、それぞれがあたかも町工場であるかのように自主的に活動します。

そして各グループの活動成果としての付加価値を明確にし、各グループにおいてリーダーを中心に自部門の採算向上を実現するため、各グループのメンバー全員が問題点を共有し、その解決にあたります。これらを通し社員全員が経営に参加し、一人ひとりが採算意識を持ち、信頼をベースにした葡萄の房のような小さな果実の集合体にしていきたいと考えています。

代表取締役社長 池田 和明



トータルソリューションの提供により、 導入から成果物の品質までサポート

当社グループは、産業用インクジェットプリンタ、カッティングプロッタ、インク等の開発・製造・販売・保守サービスを一貫して行う開発型企業です。独自のコア技術を駆使し、デジタルトランスフォーメーションのさらなる進展を推し進め、導入から成果物の品質までをサポートするソリューションプロバイダーとしての役割を担ってまいります。

ソリューションプロバイダー

前工程・プリント/カット/コート・後工程の一貫システムによるトータルソリューションを提供



社会・顧客ニーズ

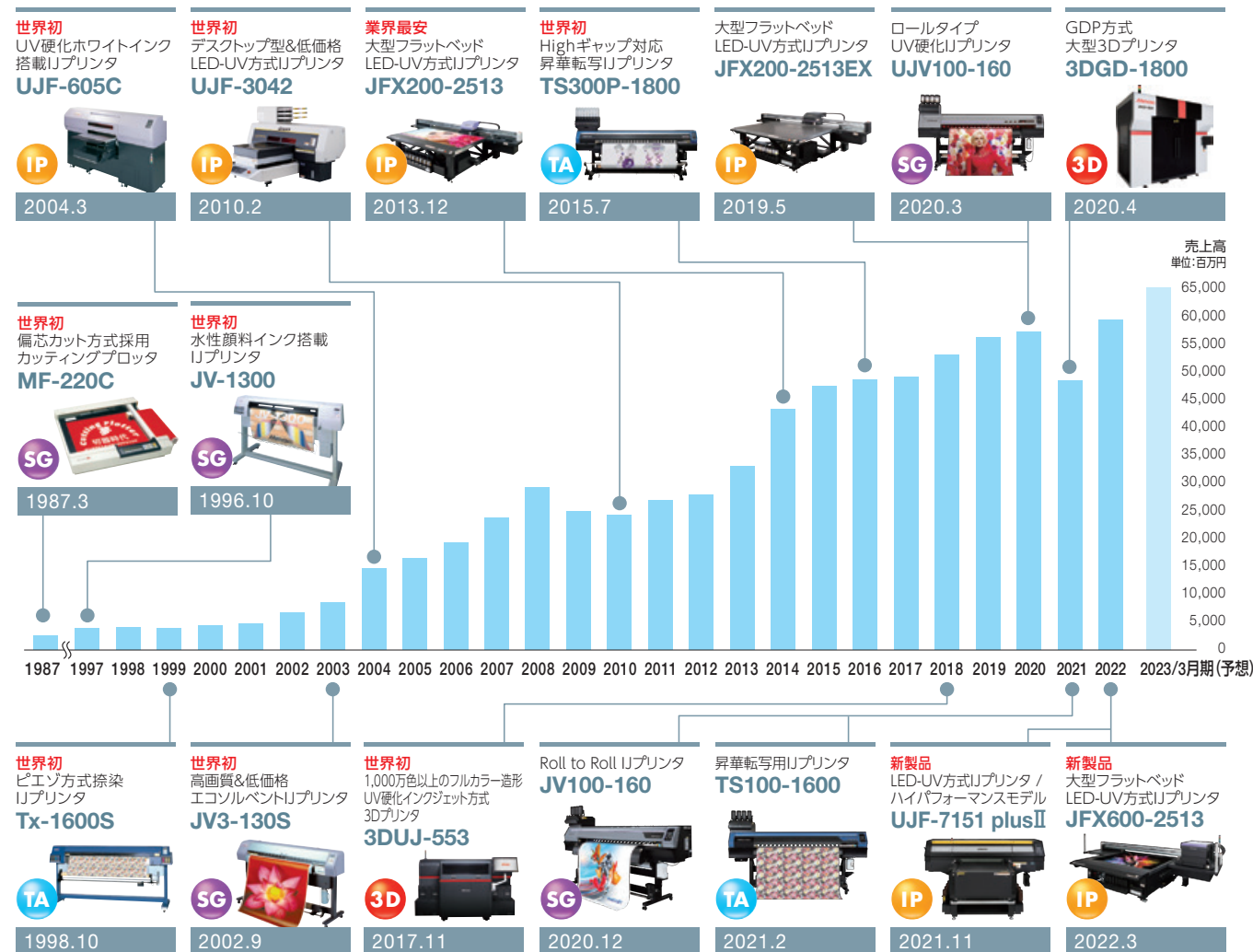
- 1 少量多品種生産
- 2 生產品の高付加価値化
- 3 ランニングコスト低減
- 4 リードタイム短縮
- 5 在庫レス
- 6 環境経営
- 7 無人化・省人化
- 8 eコマース環境構築(小売業)



Mimakiのコア技術

Mimakiの歩みはイノベーションの歴史

デジタル・オンデマンド生産のマーケットリーダーとして、多様なニーズを迅速かつ的確に捉え、そこに狙いを絞った製品を素早く提供することで、今後も新たな市場と顧客を創出してまいります。



3つの販売市場に向けた製品提供とFA事業の展開

各市場のプレーヤーにとって最適な製品を常に提供し、各市場の拡大を推進。

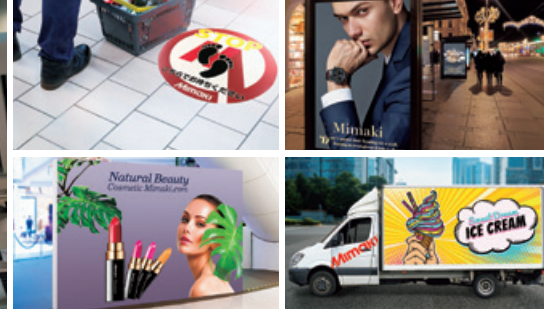
SG

サイン
グラフィックス

Sign Graphics

大型ポスター、カーラップ
ピング、のぼり旗、表示板
といった広告・看板等、街
を彩るビジネスシーンで
活躍している当社の主力
製品群。

活用事例



主なプリント素材

・塩ビシート ・パナールシート
・ウィンドウフィルムなど



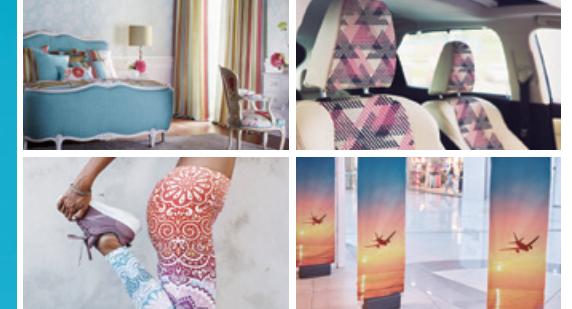
TA

テキスタイル・
アパレル

Textile & Apparel

裁断・縫製加工前の生地
や既製服などファスト
ファッション・スポーツ
ウェア業界のほか、ファ
ニチャー業界で拡大して
いる製品群。

活用事例



主なプリント素材

・ポリエステル ・レーヨン ・綿 ・絹
・合成皮革など



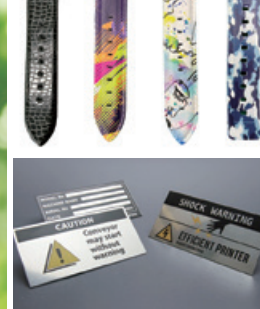
IP

インダストリアル
プロダクト

Industrial Products

自動車の計器パネルや家
電類の操作パネル等の工
業製品のほか、一般消費
者向けのギフトやノベル
ティ、オーダーグッズ等
の生産現場等で使用され
ている製品群。

活用事例



主なプリント素材

・プラスチック ・アクリル
・ガラス ・金属 ・木材など

3D

3Dプリンタ

3D Printer

1,000万色以上のフルカ
ラー造形から、高さ1.8m
までの超大型造形まで
3Dプリンタによりプロ
ダクトデザインやフィ
ギュア、立体看板で活用
されている製品群。

活用事例



FA

ファクトリー
オートメーション

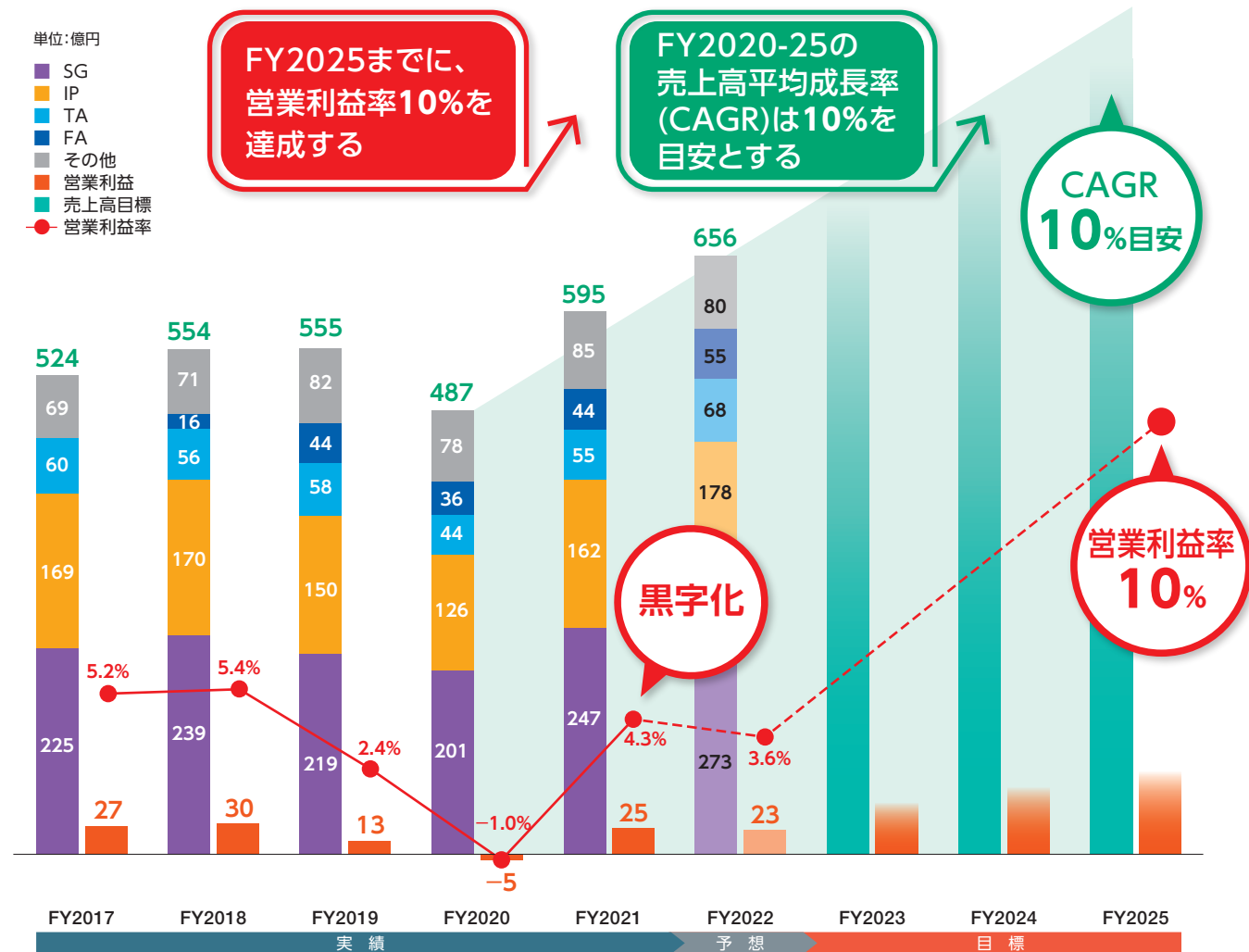
Factory Automation

ベクター技術、メカトロ
ニクス技術をもとに5つ
の事業を展開。オンデマ
ンド型のデジタルコー
ティングマシンで印刷か
らコーティングまで生産
工程の全自動化にも対応。



新・中長期成長戦略 Mimaki V10

当社は新中長期成長戦略「Mimaki V10」で定めた目標：2025年度までに営業利益率10%の達成に向けた施策を着実に実行し、業績のV字回復を確実なものといいたします。



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。
ここに、第47期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の事業の状況について、ご報告申し上げます。

代表取締役社長 池田和明

2022年3月期の業績について

2022年3月期の連結業績は、売上高595億11百万円(前期比22.1%増)、営業利益25億69百万円(前期は営業損失5億9百万円)と、大幅な増収増益となりました。

当期は、期間を通じて新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受けたものの、各国でのワクチン接種の進捗や経済・社会活動の正常化に向けた動きが顕著となり、景気回復の動きが見られた一方、足下ではロシア・ウクライナ問題の発生に加え、世界的な物流の混乱や部品・原材料の調達難が継続するなど、厳しい経営環境が続いています。

このような環境のなか、当社グループでは2020年12月に制定した中長期成長戦略「Mimaki V10」で定めた重点施策に基づき、新製品の市場投入と販売拡大、市場環境や顧客ニーズの急激な変化を見据えた事業展開、収益性向上に向けた基盤構築を継続してまいりました。とりわけ、当期はプラットフォーム設計の推進により合計10機種の新製品を投入し、市場でのプレゼンスを一層強化するなど、将来成長に向けた取り組みを着実に進めてまいりました。

当期の売上高は、部品・原材料不足による製品供給面での影響や、物流の混乱によるリードタイム長期化等の影響を受けましたが、世界各地とりわけ北米や欧州での景気回復に伴う顧客のプリント需要の回復や設備投資の再開等の機を捉え、SG(サイングラフィックス)市場、IP(インダストリアルプロダクツ)市場、TA(テキスタイル・アパレル)市場のいずれも、前期を大幅に上回りました。地域別では、為替の円安効果もあり、全ての地域で前期を上回る結果となりました。一方で、当第4四半期連結期間においてはロシア・ウクライナ問題や、中国での新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けました。

利益面では、売上原価が輸送費の高騰や、部品・原材料高騰の影響を受けるとともに、販管費が人件費、製品補修費、研究開発費等の増加があったものの、それを上回る増収効果に加え為替の円安効果もあり、営業利益以下の各利益は大幅な増益となりました。

2023年3月期通期の連結業績見通しについて

2023年3月期通期の連結業績予想につきましては、売上高656億円(前期比10.2%増)、営業利益23億30百万円(同9.3%減)といたしま

す。全般的に新型コロナウイルス感染症の影響に加え、ロシア・ウクライナ問題に起因する世界経済の先行き不透明感が残るとともに、世界的な部品・原材料の不足及び物流の混乱による影響が、当上期中は継続する想定です。一方で、景気全般は緩やかであるものの回復が継続すると見込んでいます。

売上高は、部品・原材料不足や物流の混乱による影響を受けるものの、需要回復の機を捉えた新製品の投入や、前期までに投入した既存製品の販売拡大により、SG、IP、TA、FA(ファクトリーオートメーション)の各市場ともに大幅な増収を見込んでいます。地域別では、欧州において当期はロシア・ウクライナでの売上は見込まず、東欧諸国での一定の影響も織り込み、前期比微増となる見通しであるものの、アジア・オセアニア、北米、日本、中南米での大幅な増収を見込んでいます。

利益面では、営業利益は、増収による効果を見込む一方で、部品・原材料の確保及び輸送の逼迫に伴うコスト上昇による売上原価率の悪化を織り込むとともに、営業活動の本格化や製品開発の加速等に伴う販売費及び一般管理費の増加を見込むことに加え、為替レートの前提を前期比円高水準で設定した影響もあり、減益となる見通しです。

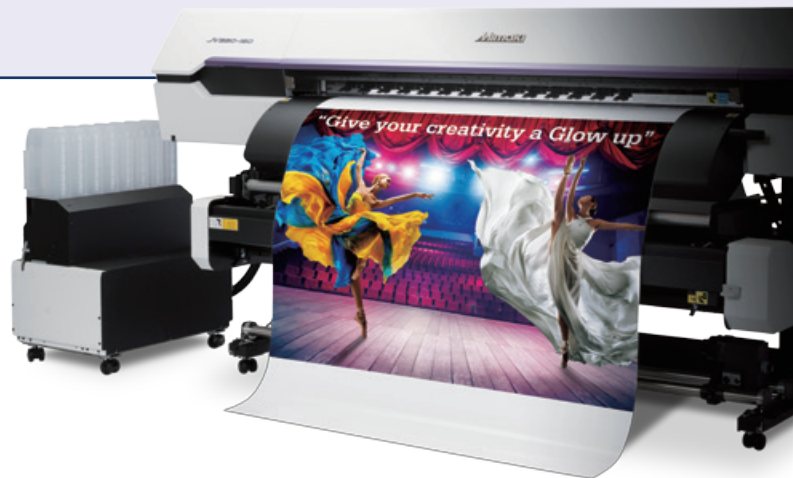
株主様へのメッセージ

当社グループでは、中長期成長戦略「Mimaki V10」に基づき、2025年度までに営業利益率10%の達成に向け取り組んでいますが、前述のとおり環境の急激な変化によって多くのリスクが顕在化しており、これに適切に対応する必要があります。このような経営環境を踏まえ、経営リスクへの対応に最優先で取り組むため、今期のグループ経営方針を「土台を固める」と定め、全社をあげて取り組んでまいります。

なお、株主還元につきましては、今後の業績見通し及び安定的かつ継続的な株主還元方針に基づき、2023年3月期の年間配当は1株当たり15円(中間7.5円、期末7.5円)を予定しております。

株主の皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

+ 高画質 × 高生産性



330 Series
JV330-160/130
CJV330-160/130

新
プラットフォーム

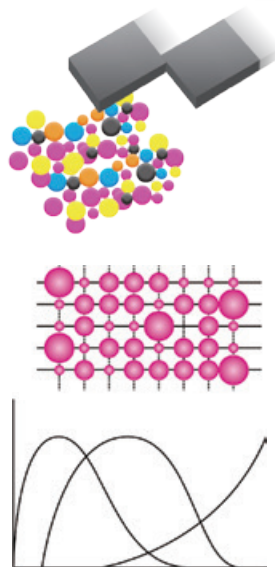
筐体を一から設計
高画質 × 高生産性を追求したフラグシップモデル

ミマキのフラグシップモデルに相応しい高画質・高生産性のバランスを追求し、メンテナンス性や操作性も向上させた新プラットフォームが、お客様の安定稼働を支えます。

新
イメージングテクノロジー

最新のイメージングテクノロジー

ミマキがこれまでに培ったインクのドロップ技術をさらに向上させ、印刷品質を格段にレベルアップさせました。中間色とグレーの両立はさらなる表現力を生み出します。



Print&Cut

CJV330 Seriesは多様なニーズに応えるプリント & カット機能を搭載。ロール1本の連続カットが可能な機能や、切り残しをなくし美しくカットする機能などを備えています。

Print Speed

高速化した印刷速度で短納期のお仕事にも対応。1時間あたり21.0㎡や1時間あたり30.0㎡などの生産性の高い高速印刷モードでも高画質を実現いたしました。

+ 高付加価値



XY
スリッター

印刷物の全自動カットで
省作業・省人化をサポート

印刷物を縦横軸で1枚ずつカットが可能。印刷後に自動裁断するため、ラミネート後も使用できます。劇的に作業が短縮され、後加工の作業効率が格段にアップします。



メディア
チェンジャー

女性には重たいメディアの切り替えも
安全・効率的に

最大3本のロールメディアをセットしておくことで、メディア交換の手間を大幅に削減。軽い力でハンドルを回すだけでメディアの交換が行えるため、どなたでも安心してお使いいただけます。



2021年度下期 新製品ラインナップ

Mimaki
3D Print prep Pro

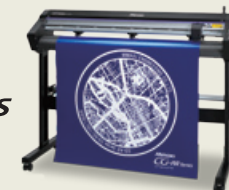
2021年
10月

2022年
2月



330 Series
JV330-160/130
CJV330-160/130

CUTTING PLOTTER
CG-AR Series
CG-60AR/100AR/130AR



TS330-1600

3D 日本印刷学会「技術賞」を受賞

2022年2月25日に開催された一般社団法人日本印刷学会通常総会において、「フルカラー3Dプリンタの開発・商品化」が「日本印刷学会技術賞」を受賞しました。同賞は、印刷産業の発展、あるいは印刷技術の他産業への応用に特徴的な貢献をした技術内容に対して表彰されるもので、技術の新規性、独自性や市場での評価・実績などの面から審査されます。従来の3Dプリンタでは、立体物の形状を作るのみもしくは、低解像度で色数の少ない着色立体物しか造形できませんでした。これに対し、当社のフルカラー3Dプリンタは、立体物の造形動作と同時にフルカラーでの表面印刷動作を行い、彩度の高いフルカラー着色立体物の造形を可能としたものです。加えて、造形物の硬化UV-LEDで行うため、構造が簡単で発熱が少なく、装置としての高い信頼性を有しています。これらの新規性や独自性、特徴が高く評価され、今回の受賞に至りました。



EVENT 信州大学との「共創研究所」を設置

当社と国立大学法人信州大学は、「組織」対「組織」として社会における互いの役割及びビジョンを共有しつつ、基礎研究から実用化フェーズを視野に入れることで社会実装を加速し、社会に対して新たな価値の共創を実現すること、また、両者の間の組織間連携による人材交流の深化が図られ、双方にとって高度な人材育成に資することを目的とし、「共創研究所」の設置にかかる契約を締結しました。この度、「Mimaki×信州大学共創研究所」を起点に、革新的な大判インクジェットプリンタに関する研究開発を、2022年4月1日から2025年3月31日までの3年間の計画で開始します。この共創研究所は、信州大学で「共創研究クラスター共創研究所」制度の第一号となります。



SG EDP Awardを受賞

当社は、欧州デジタルプレス協会 (European Digital Press Association:以下EDP) 主催のEDP Awardにおいて、「JFX600-2513」、「TS100-1600」及び「3DUJ-2207」の3製品で「EDP Award 2021」を受賞いたしました。

EDP Awardは、独立したコンサルタント、編集者、エンジニア、及び関連の専門家で構成されたEDP技術委員会の選考により、デジタル印刷業界における革新的な製品に授与されるものです。当社は昨年の受賞に続き、本年は「フラットベッド／ハイブリッドプリンタ(最大100㎡/h)部門」と「Roll to Rollテキスタイルプリンタ(最大100㎡/h)部門」及び「3Dアディティブプリンティング(フルカラー)部門」の3部門で「EDP Award 2021」を受賞しました。



当社は、2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)で定めた17の目標のうち、インクジェット技術で7つの項目に貢献してまいります



▶ 当社グループは、サステナビリティ対応の一環として、資源循環型の経営・技術に鋭意取り組んでいます

これまで独自のインクジェット技術で、社会・環境ニーズに貢献するデジタル・オンデマンドプリント事業の拡大を推進してまいりました。今後も、デジタルトランスフォーメーション(バリューチェーンを含めた新たな付加価値につながるデジタル化)を的確に捕捉し、さらに深化すると思われる無人化・省人化、高速化・高品質化、無水捺染等の高度な付加価値につながる社会・環境ニーズにいち早く対応できるよう取り組んでまいります。

▶ デジタル・オンデマンドプリントの推進で、持続可能な社会の実現へ

当社は、独自のラスタ技術とベクター技術を駆使して、デジタル・オンデマンドプリントのさらなる進展を推し進めてまいります。

6 安全な水とトイレを世界中に 11 住み続けられるまちづくりを	6 節水 染色による淡水汚染をインクジェットプリントで解消、昇華転写プリントで節水を可能に	7 再生可能エネルギーを拡大する	7 物流フローの削減 デジタル・オンデマンドプリントで物流フローを短縮
11 住み続けられるまちづくりを	11 在庫ロスの減少 インクジェットプリントでロスを最小限に	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	9 生産設備の効率化 インクジェットプリントで環境に配慮した設備作りを可能に
12 つくる責任 つかう責任	12 環境に優しいインクの開発・製造 環境に優しく、オペレーターの健康負荷の軽減にも配慮したエコロジーインクを開発	15 陸の豊かさも守ろう	12 環境へ配慮したインクカートリッジ 使用済みインクカートリッジ類の無償回収・再利用、エコインクカートリッジの採用

コロナワクチン職域接種の実施について

当社では、新型コロナウイルスへの感染・重症化・クラスター発生を予防し、まん延防止に繋げ、社内はもとより地域全体における集団免疫の早期獲得・経済活動再開へ貢献することを目的に、2021年7月22日(第1回目)より2022年3月26日(第3回目)までの期間に実施した新型コロナウイルスの職域接種において、社員とご家族、お取引先様、近隣の企業様、地域住民の皆様等を含め、全体で延べ5,000名への接種を行いました。



国内拠点

本社・牧家工場
長野県東御市滋野乙2182番地3

加沢工場
長野県東御市加沢1333番地3

長野開発センター
長野県長野市北長池520番地1

八王子開発センター
東京都八王子市北野町593番地6

JPデモセンター
東京都品川区西五反田7丁目22番地17
TOCビル6階

営業拠点
東京、大阪、札幌、仙台、長野、横浜、さいたま、西東京、北関東(宇都宮)、金沢、名古屋、京都、神戸、広島、四国(高松)、福岡

グループ
子会社

● 子会社の主要な支店



Mimaki Lithuania, UAB
(リトアニア)



MIMAKI EUROPE B.V.
(オランダ)



Mimaki Deutschland GmbH
(ドイツ)



阿尔法自动化技术(深圳)有限公司
(中国)



Mimaki Bompan Textile S.r.l.
(イタリア)



Mimaki La Meccanica S.p.A.
(イタリア)



大連阿尔法设计有限公司
(中国)



MIMAKI EURASIA DIGITAL BASKI TEKNOLOJILERI PAZARLAMA VE TICARET LIMITED SIRKETI
(トルコ)



上海御牧貿易有限公司
(中国)



御牧噴墨打印科技(浙江)有限公司
(中国)



MIMAKI (THAILAND) CO., LTD.
(タイ)



アルファデザイン株式会社
(日本)



MIMAKI AUSTRALIA PTY LTD
(オーストラリア)



株式会社アルファシステムズ
(日本)



MIMAKI INDIA PRIVATE LIMITED
(インド)



株式会社砺波製作所
(日本)



MIMAKI SINGAPORE PTE. LTD.
(シンガポール)



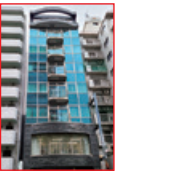
株式会社ミマキプレジジョン
(日本)



株式会社グラフィッククリエーション
(日本)



PT. MIMAKI INDONESIA
(インドネシア)



株式会社マイクロテック
(日本)



MIMAKI USA, INC.
(アメリカ)



台湾御牧股份有限公司
(台湾)



MIMAKI BRASIL COMERCIO E IMPORTACAO LTDA
(ブラジル)

沿革

- 1975年 8月 (有)ミマキエンジニアリング設立
- 1981年 5月 (株)ミマキエンジニアリングに改組
- 1983年 12月 OEM向けA2フラットベッドペンプロッタRY-1003開発開始
- 1985年 2月 「北斎」の商標で、A2フラットペンプロッタ販売開始
- 1986年 3月 加沢工場操業開始
- 1995年 7月 台湾御牧股份有限公司設立
- 1999年 1月 ISO 9001認証(審査登録)
- 9月 MIMAKI USA設立
- 2003年 10月 長野開発センター開設

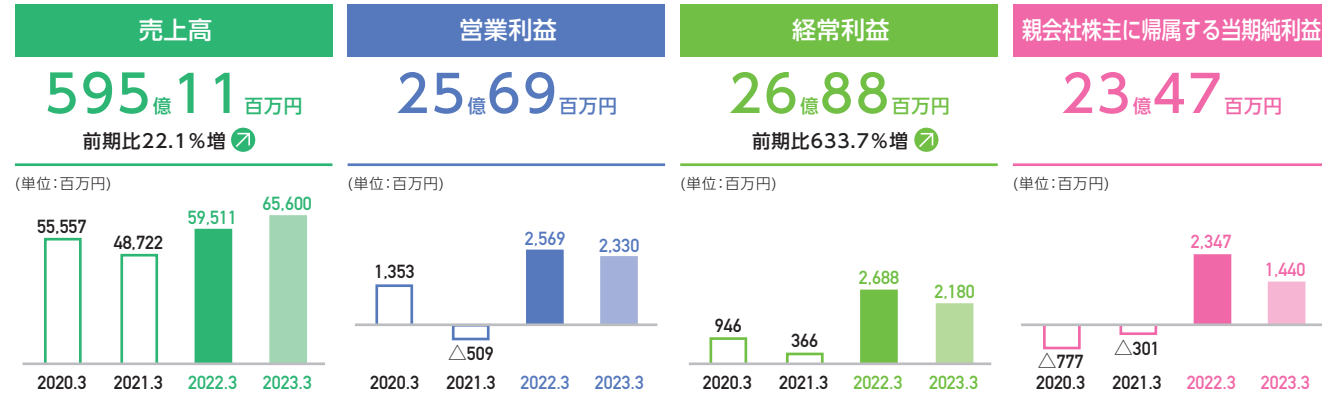
- 2004年 4月 (株)ミマキプレジジョン設立
- 4月 MIMAKI EUROPE設立
- 9月 長野県東御市に牧家工場取得
- 2005年 4月 テクニカルコールセンター開設
- 2006年 4月 (株)グラフィッククリエーションを子会社化
- 8月 本社を長野県東御市滋野乙に移転
- 2007年 3月 ジャスダック証券取引所上場
- 12月 御牧噴墨打印科技(浙江)有限公司設立
- 2008年 7月 Mimaki Deutschlandを子会社化
- 2009年 1月 ISO14001認証(審査登録)
- 6月 上海御牧貿易有限公司設立

- 2010年 8月 平湖御牧貿易有限公司設立
- 2011年 11月 MIMAKI INDONESIA設立
- 2013年 4月 MIMAKI AUSTRALIA設立
- 4月 MIMAKI SINGAPORE設立
- 7月 MIMAKI INDIA設立
- 2015年 3月 東京証券取引所市場第一部に市場変更
- 5月 八王子開発センター開設
- 7月 滋野ショールームオープン
- 2016年 4月 MIMAKI EURASIA設立
- 7月 JPデモセンター開設

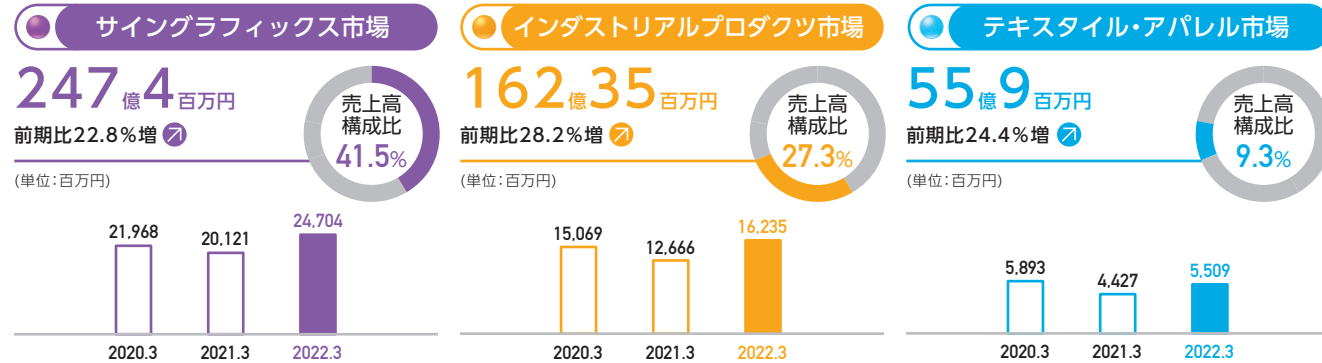
- 7月 } ラボセンター開設(TA・IP)
- 8月 }
- 10月 Mimaki La Meccanicaを子会社化
- 2017年 2月 Mimaki Lithuania設立
- 6月 Mimaki Bompan設立
- 2018年 10月 アルファデザイン(株)を子会社化
- 11月 (株)楽日を子会社化
- 2019年 3月 MIMAKI (THAILAND)設立
- 2022年 3月 (株)マイクロテックを子会社化
- 4月 東京証券取引所プライム市場に移行

業績のポイント

連結業績ハイライト



市場別状況

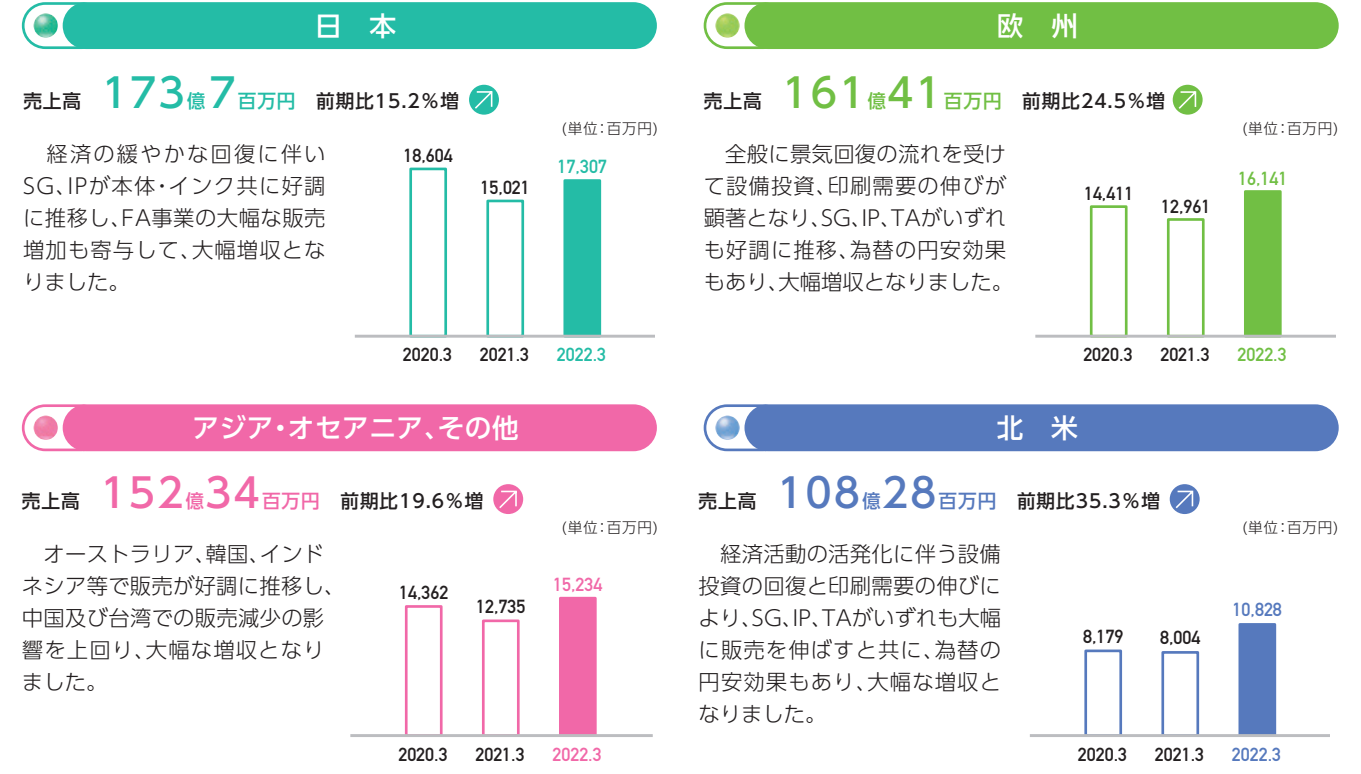


経済活動の活発化に伴うサイングラフィック市場の回復が顕著となり、加えてウイルス感染症予防関連サイングラフィック等の新たな需要も伸び、設備投資の増加に伴いエントリーモデルに加え主力製品のCJV/UCJV300、CJV150、UJV55等の本体販売が好調に推移、インクも堅調な伸びとなり、大幅な増収となりました。

世界的な景気回復に伴う工業製品やノベルティグッズ等のプリント需要の大幅な増加により、豊富なラインアップ展開による既存の主力製品JFX200EXや、当期に投入した新製品が本体・インクともに好調に推移し、大幅な増収となりました。

景気回復に伴いテキスタイル・アパレル市場の需要が伸び、顧客の設備投資回復を捉えてエントリーモデルを中心とした本体、稼働率上昇によるインクとも販売が増加し、大幅な増収となりました。

地域別状況



経済の緩やかな回復に伴いSG、IPが本体・インク共に好調に推移し、FA事業の大幅な販売増加も寄与して、大幅増収となりました。

全般に景気回復の流れを受けて設備投資、印刷需要の伸びが顕著となり、SG、IP、TAがいずれも好調に推移、為替の円安効果もあり、大幅増収となりました。

オーストラリア、韓国、インドネシア等で販売が好調に推移し、中国及び台湾での販売減少の影響を上回り、大幅な増収となりました。

経済活動の活発化に伴う設備投資の回復と印刷需要の伸びにより、SG、IP、TAがいずれも大幅に販売を伸ばすと共に、為替の円安効果もあり、大幅な増収となりました。

